特定原子力施設監視・評価検討会 (第100回) 資料2-2

解放基盤表面の地震動(はぎとり波)および 3 号機地震観測記録(卓越周期の推移)について

2022年6月20日



東京電力ホールディングス株式会社

本資料中におけるO.P.表記は震災前の「旧O.P表記」を指す。 T.P.表記に換算する際は,震災後の地盤沈下量(-709mm)とO.P.から T.P.への読替値(-727mm)を用いて,下式に基づき換算する。 <換算式> T.P.=旧O.P.-1,436mm

はぎとり解析の目的

TEPCO

地盤中の記録から,上部地盤の影響を取り除き,解放基盤表面の地震動を推定する。 なお,解放基盤表面の地震動を「はぎとり波」と呼ぶ。



はぎとり解析の概念図

自由地盤系北地点 はぎとり波の推定(加速度時刻歴波形)

TEPCO

解放基盤表面(O.P.-196m)に最も近いO.P.-200mの位置に設置されている地 震計の記録を用いて,はぎとり波を推定。



自由地盤系南地点 はぎとり波の推定(加速度時刻歴波形)

TEPCO

解放基盤表面(O.P.-196m)に最も近いO.P.-200mの位置に設置されている地 震計の記録を用いて,はぎとり波を推定。



自由地盤系北地点 はぎとり波の推定 (擬似速度応答スペクトル)TEPCO

・Ss900(検討用地震動①)で完全包絡する結果となった。





4

自由地盤系南地点 はぎとり波の推定 (擬似速度応答スペクトル)TEPCO

・Ss900(検討用地震動①)で完全包絡する結果となった。





自由地盤系北地点 はぎとり波の推定(加速度応答スペクトル)TEPCO

・Ss900(検討用地震動①)で完全包絡する結果となった。



6

自由地盤系南地点 はぎとり波の推定(加速度応答スペクトル)TEPCO

・Ss900(検討用地震動①)で完全包絡する結果となった。



3号機原子炉建屋建屋の経年変化等の傾向把握の検討



3月16日地震前後で,卓越周期(フーリエスペクトル比*のピーク)の傾向に変化は 見られない。

5階のフーリエスペクトルを1階のフーリエスペクトルで除したもの



※卓越周期のグラフについてはデータ数が多いため一階の最大加速度が10を超えるものを表示
※暫定結果のため、今後の変更の可能性あり
8

過去コメント回答について

TEPCO

(第99回 コメント)

・自由地盤系の観測について、地表面のデータが中止している箇所も、今後の地震モデル検証にあたり、 観測できるところは観測すべき(規制庁)

(回答)

長期的に観測をつづけていくための信頼性向上対策として全面的な設備更新を計画しており、その中で観 測休止箇所についても復旧予定。既存孔の調査の結果、既存孔の流用しての加速度計の交換は困難である ことから、新規ボーリング工事を行って復旧する。(2022年度~2023年度 順次実施)



以下,参考

(参考)はぎとり解析の検討の流れ



地盤中の記録から,上部地盤の影響を取り除き,はぎとり波を推定する。はぎとり 波は,最も観測記録が多く得られている自由地盤系北地点の水平動の分析結果を踏 まえ,以下の検討フローに基づき推定する。

①地盤モデル同定	②はぎとり解析用の 地盤モデルの設定	③はぎとり波推定
最も観測記録が多く得られて いる自由地盤系北地点の水平 動を対象に,今回の地震観測 記録を用いて評価した伝達関 数を対象に逆解析を実施し,	 ①で求めた今回モデルと 2011年東北地方太平洋沖地 震の観測記録を用いて同定し た地盤モデル(以下,既往モ デル)を比較。 	 ②で設定した地盤モデルを 用いて,はぎとり波を推定 上部地盤の 影響を取り除く
地盤モデル(以下,今回モデ ル)を同定。 ・逆解析手法はGAを採用	両モデルのS波速度・減衰, 理論伝達関数,及びはぎとり 波がほぼ同等となることから, 既往モデルを用いることが妥	● 推定波 (2E) 解放基盤表面
・同定の対象としたパラメータ S波速度・減衰	当と考えられる。なお,北地 点(水平動)については,今 回の記録を用いて適切に地盤 同定ができたことから今回モ	↓ + ↓ / 入射波反射波 (E) (E)
・層厚,密度についてはPS検 層結果を参考に固定	デルを用いる。	解放基盤表面での 地震動を推定



自由地盤系北地点地盤モデルの同定(水平方向)

- ・S波の鉛直入射を仮定した一次元波動論 に基づく理論地盤伝達特性を当てはめる 逆解析により同定
- ・観測記録による伝達関数は、方向による 差異が無いことを確認後、NS・EW方向 の平均で評価
- ・同定対象は、S波速度及び減衰 (層厚、密度はPS検層結果で固定)
- ・探索範囲は以下の通り設定 【S波速度】
 - 0.P.+14.2m~0.P.+0.2m

・・・初期モデルの0.25~1.2倍 上記以外・・・初期モデルの0.8~1.2倍

【減衰】
h(f)=
$$h_0 \times f^{-\alpha}$$
 0 ≤ h(f) ≤ 1
探索範囲は h_0 , aとも 0~1

・遺伝的アルゴリズムを用い,初期乱数を変 えた10回の試行計算を実施。最小誤差を 与える地盤モデルを採用。

地盤モデルの同定結果(水平方向)

	固定パラメー	-タ	初期モデル	「ルート」の定結果		
O.P.	層厚	密度	S波速度	S波速度	減衰 h(f)=h ₀ ×f⁻ɑ	
(m)	(m)	(g/cm ³)	(m/s)	(m/s)	h _o	a
+14.2						
. 12.2	2.0	1.70	150 81		0 209	0 35
+12.2	12.0	1.80	430	233	0.209 0.35	
+0.2	5.2	1.68	470	450	0.161	0.07
-5.0	66.8	1.68	470	450	0.101	0.67
-/1.8	22.0	1.70	570	518		
-93.8	6.2	1.78				
-100.0	85.8	1.78	610	554		
-185.8	10.2	1.83			0.057	0.78
-196.0	4.0	1.83				
-200.0	100.0	1.83	780	741		
-300.0		1.83				

●:地震観測位置

※固定パラメータPS検層結果による。



- ・今回モデルの理論伝達関数は観測記録による伝達関数を再現。
- ・今回モデルと既往モデルの理論伝達関数はほぼ同等。



減衰

 $h(f)=h_0 \times f^{-a}$

а

0.35

0.35

0.87

0.87

0.78

0.78

0.78

0.78

0.78

0.78

0.78

 h_0

0.209

0.209

0.161

0.161

0.057

0.057

0.057

0.057

0.057

0.057

0.057



今回モデル

S波速度

(m/s)

81

233

450

450

518

554

554

741

741

741

741

層厚

(m)

2.0

12.0

5.2

66.8

22.0

6.2

85.8

10.2

4.0

100.0

_

O.P.

(m)

+14.2

+12.2

+0.2

-5.0

-71.8

-93.8

-100.0

-185.8

-196.0

-200.0

-300.0

	レルゴエ ヒノブレ							
	O.P.	層厚	S波速度	減衰 h(f)=h ₀ ×f⁻ª				
	(m)	(m)	(m/s)	h _o	a			
	+14.2							
	. 12.2	2.0	103	1.000	0.59			
	+12.2	12.0	294	0.363	0.53			
	+0.2 -5.0 -71.8 -93.8	5.2	471	0.127	1.00			
		66.8	471	0.127	1.00			
		22.0	515	0.070	0.94			
1		6.2	551	0.070	0.94			
1	-100.0	85.8	551	0.070	0.94			
1	-185.8	10.2	746	0.070	0.94			
1	-196.0 -200.0 -300.0	4.0	746	0.070	0.94			
		100.0	746	0.070	0.94			
		-	746	0.070	0.94			

町汁工二川



TEPCO



今回モデルと既往モデルのS波速度と減衰の比較



・北地点(水平方向)今回モデルによるはぎとり波は 既往モデルによるはぎとり波とほぼ同等。



今回モデルによるはぎとり波(赤)と既往モデルによるはぎとり波(青)

TEPCO

地盤モデルの設定方針

今回モデルと既往モデルのS波速度・減衰,理論伝達関数,及びはぎとり波がほぼ同等となることから,既往モデルを用いることが妥当と考えられる。なお,北地点(水平動)については,今回の記録を用いて適切に地盤同定ができたことから今回モデルを用いる。

北地点(水平方向)今回モデル

0.P.	層厚	密度	S波速度	減衰 h(f)=h ₀ ×f⁻ɑ	
(m)	(m)	(g/cm ³)	(m/s)	h _o	а
+14.2					
. 12.2	2.0	1.70	81	0.209	0.35
+12.2	12.0	1.80	233	0.209	0.35
+0.2	5.2	1.68	450	0.161	0.87
-5.0	66.8	1.68	450	0.161	0.87
-/1.8	22.0	1.70	518	0.057	0.78
-93.8	6.2	1.78	554	0.057	0.78
-100.0	85.8	1.78	554	0.057	0.78
-185.8	10.2	1.83	741	0.057	0.78
-196.0	4.0	1.83	741	0.057	0.78
-200.0	100.0	1.83	741	0.057	0.78
-300.0	_	1.83	741	0.057	0.78

北地点(上下方向)既往モデル

O.P.	層厚	密度	P波速度	減衰 h(f)=h ₀ ×f ^{-a}	
(m)	(m)	(g/cm ³)	(m/s)	h _o	а
+14.2					
10.0	2.0	1.70	1229	0.382	0.40
+12.2	12.0	1.80	1229	0.382	0.40
+0.2	5.2	1.68	1803	0.582	1.00
-5.0	66.8	1.68	1803	0.582	1.00
-71.8	22.0	1.70	1803	0.582	1.00
-93.8	6.2	1.78	1879	0.266	1.00
-100.0	85.8	1.78	1879	0.266	1.00
-185.8	10.2	1.83	1982	0 196	1 00
-196.0	10.2	1.00	1002	0.100	1.00
-200.0	4.0	1.83	1982	0.190	1.00
	100.0	1.83	1982	0.196	1.00
-300.0	_	1.83	1982	0.196	1.00

TEPCO

南地点(水平方向) 既往モデル

O.P.	層厚	密度	S波速度	減衰 h(f)=h ₀ ×f ⁻ ª	
(m)	(m)	(g/cm ³)	(m/s)	h ₀	a
+34.9					
1 22 0	2.0	2.10	285	0.291	0.25
+32.9	6.0	2.10	285	0.291	0.25
+26.9	8.0	2.00	252	0.274	1.00
+18.9	22.0	1.73	400	0.274	1.00
-3.1	1.9	1.73	486	0.107	0.67
-5.0	44.1	1.73	486	0.107	0.67
-49.1	24.0	1.80	486	0.107	0.67
-/3.1	24.0	1.80	592	0.107	0.67
-97.1	2.9	1.77	592	0.107	0.67
-100.0	9.1	1.77	592	0.107	0.67
-109.1	46.0	1.77	659	0.063	1.00
-155.1	40.0	1.76	659	0.063	1.00
-195.1	0.9	1.76	740	0.063	1.00
-196.0	4.0	1.76	740	0.063	1.00
-200.0	10.1	1.76	740	0.063	1.00
-210.1	89.9	1.81	740	0.063	1.00
-300.0		1.81	740	0.063	1.00

O.P.	層厚	密度	P波速度	減衰 h(f)=h ₀ ×f⁻ɑ	
(m)	(m)	(g/cm ³)	(m/s)	h _o	a
+34.9					
	2.0	2.10	366	0.139	0.55
+32.9	6.0	2.10	366	0.139	0.55
+26.9	8.0	2.00	1042	1.000	0.71
+18.9	22.0	1.73	1502	1.000	0.71
-3.1	1 0	1 73	1873	0.627	1 00
-5.0	1.5	1.75	1025	0.027	1.00
-49.1	44.1	1./3	1823	0.627	1.00
-73.1	24.0	1.80	1823	0.627	1.00
-97 1	24.0	1.80	1823	0.627	1.00
100.0	2.9	1.77	1823	0.627	1.00
100.0	9.1	1.77	1823	0.627	1.00
-109.1	46.0	1.77	1907	0.252	1.00
-155.1	40.0	1.76	1907	0.252	1.00
-195.1	0.9	1 76	2108	0 252	1 00
-196.0	4.0	1 76	2100	0.252	1.00
-200.0	4.0	1.70	2100	0.252	1.00
-210.1	10.1	1.76	2108	0.252	1.00
200.0	89.9	1.81	2108	0.252	1.00
-300.0	_	1.81	2108	0.252	1.00

南地点(上下方向)既往モデル